

第 12 回 臨床消化器病研究会 プログラム

日 時 : 2011 年 7 月 23 日(土) 8:45 ~ 15:55

受付開始 8:00~

研究会 8:45~15:45

場 所 : グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

東京都港区高輪 3-13-1 TEL:03-3442-1111

受 付 1 階 ロビー
会 場 消化管 : 3 階「崑崙」
肝胆膵 : 3 階「北辰」

事務局 :

消化管: 福岡大学筑紫病院 消化器内科

〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院一丁目 1 番 1 号

TEL:092-921-1011 FAX:092-928-3890

肝胆膵: 手稲溪仁会病院 消化器病センター

〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田 1 条 12 丁目 1-40

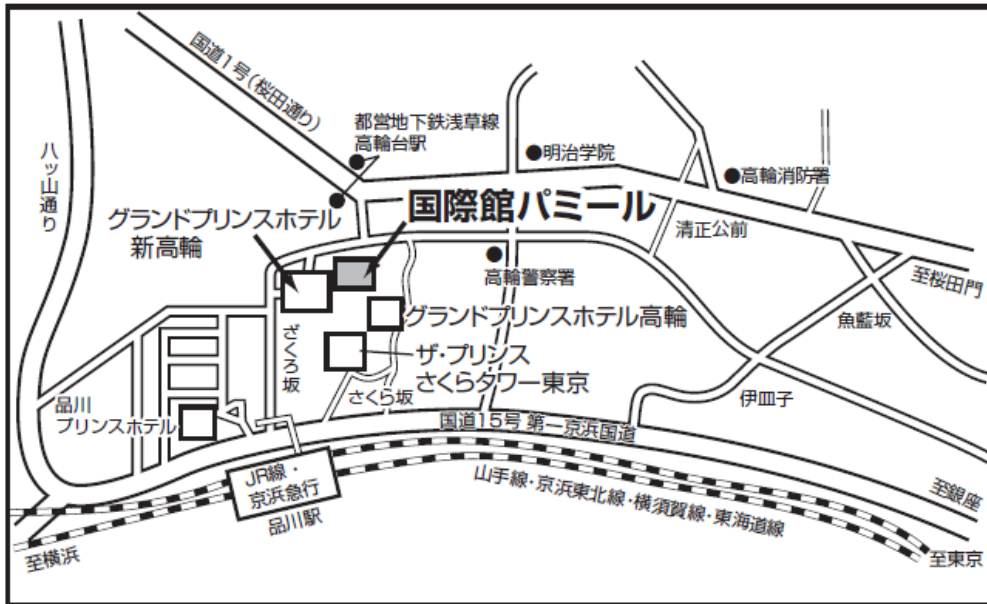
TEL:011-681-8111(内線 2050) FAX:011-685-2967

会場費 : 3,000 円

※本研究会へは、ノーネクタイ・カジュアルな服装でお越しください。

共 催 臨床消化器病研究会
エーザイ株式会社

会場案内図



- 【交通】**
- 電車** JR線・京浜急行品川駅(高輪口)から徒歩約10分
都営地下鉄浅草線高輪台駅から徒歩約3分
京浜急行羽田空港駅から品川駅へ約19分
- 車** 羽田空港から約20分
東京シティエアーターミナル(箱崎)から約20分
東京駅から約20分
JR線、モノレールの浜松町駅から約10分
銀座から約15分

第 12 回臨床消化器病研究会 進行表

Time	消化管：崑崙(3F)	肝胆膵：北辰(3F)
8:45	開会の辞 松井 敏幸	開会の辞 真口 宏介
8:50	主題1 大腸 【潰瘍性大腸炎に合併する腫瘍性病変の診断と治療】 司 会：松本 主之 山野 泰穂 病理指導：味岡 洋一	主題1 肝 【肝細胞癌との鑑別を要する多血性腫瘍】 ～「特に FNH-like lesion について」～ 司 会：工藤 正俊 吉満 研吾 病理コメンター：中島 収
10:40	休 憩	休 憩
10:50	主題2 食道 【食道扁平上皮癌の深達度診断】 司 会：井上 晴洋 小山 恒男 病理指導：大倉 康男	主題2 胆 【乳頭部腫瘍の診断と治療のコンセンサス】 司 会：木村 理 花田 敬士
12:40	休 憩	休 憩
13:15	共同セッション (※ランチョン形式) 司 会：真口 宏介 テーマ1：伊藤 鉄英 【慢性膵炎診療ガイドライン】 テーマ2：松井 敏幸 【クローン病診療ガイドライン】	
13:45	<消化管会場(崑崙)は中継>	
	休 憩	休 憩
13:55	主題3 胃 【潰瘍をきたす胃病変の鑑別診断】 司 会：長南 明道 後藤田卓志 病理指導：八尾 隆史	主題3 膵 【主膵管型 IPMN とは?】 司 会：真口 宏介 渡邊 五朗
15:45	休 憩	休 憩
15:50	閉会の辞 松井 敏幸	閉会の辞 真口 宏介

◆ 昼食はお弁当をご用意いたします。(12:40～13:45)

◆ モニタールーム(消化管)：2F「青葉」をご用意しております。(※3F「崑崙」混雑時)

◆ リフレッシュルーム(2F「松葉」)(8:00～15:50)をご用意しております。

なお中継はございませんので予めご了承ください。

臨床消化器病研究会 世話人名簿

代表世話人(消化管) 松井 敏幸
(肝胆膵) 真口 宏介

福岡大学筑紫病院 消化器内科
手稲溪仁会病院 消化器病センター

世話人(消化管:50音順)

味岡 洋一	新潟大学大学院 分子・診断病理学
飯石 浩康	大阪府立成人病センター 消化管内科
石黒 信吾	ピーシーエルジャパン
井上 晴洋	昭和大学横浜市北部病院 消化器センター
岩下 明德	福岡大学筑紫病院 病理部
大倉 康男	杏林大学医学部 病理部
小山 恒男	佐久総合病院 胃腸科
鬼島 宏	弘前大学大学院 医学研究科 病理生命科学講座
後藤田卓志	国立国際医療研究センター病院 消化器科
斉藤 裕輔	市立旭川病院 消化器病センター
田中 信治	広島大学 内視鏡診療科
長南 明道	仙台厚生病院 消化器内視鏡センター
鶴田 修	久留米大学医学部 消化器病センター 内視鏡診療部門
細川 治	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
松本 主之	九州大学病院 消化管内科
門馬久美子	がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科
八尾 隆史	順天堂大学医学部 人体病理病態学
山野 泰穂	秋田赤十字病院 消化器病センター
山本 博徳	自治医科大学附属病院 光学医療センター
芳野 純治	藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 内科

世話人(肝胆膵:50音順)

糸井 隆夫	東京医科大学 消化器内科
海野 倫明	東北大学病院 肝胆膵外科
角谷 眞澄	信州大学医学部 画像医学講座
木村 理	山形大学医学部 消化器・乳腺甲状腺・一般外科
工藤 正俊	近畿大学医学部 消化器内科
熊田 卓	大垣市民病院 消化器内科
坂元 亨宇	慶應義塾大学医学部 病理学
佐野 圭二	帝京大学医学部 外科学講座
須山 正文	順天堂大学医学部附属浦安病院 消化器内科
中島 収	久留米大学医学部 臨床検査部
棚野 正人	名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学
信川 文誠	順天堂大学医学部 人体病理病態学
花田 敬士	JA 尾道総合病院 内視鏡センター
廣橋 伸治	大阪暁明館病院 放射線科
松井 修	金沢大学附属病院 放射線科
柳澤 昭夫	京都府立医科大学 人体病理学
山雄 健次	愛知県がんセンター中央病院 消化器内科
吉満 研吾	福岡大学医学部 放射線医学教室
渡邊 五朗	虎の門病院 消化器外科

名 誉 会 長

八尾 恒良	福岡大学 名誉教授, 佐田病院 名誉院長
有山 襄	順天堂大学 名誉教授
飯田 三雄	九州大学 名誉教授, 公立学校共済組合九州中央病院 院長

名 誉 世 話 人 (50 音 順)

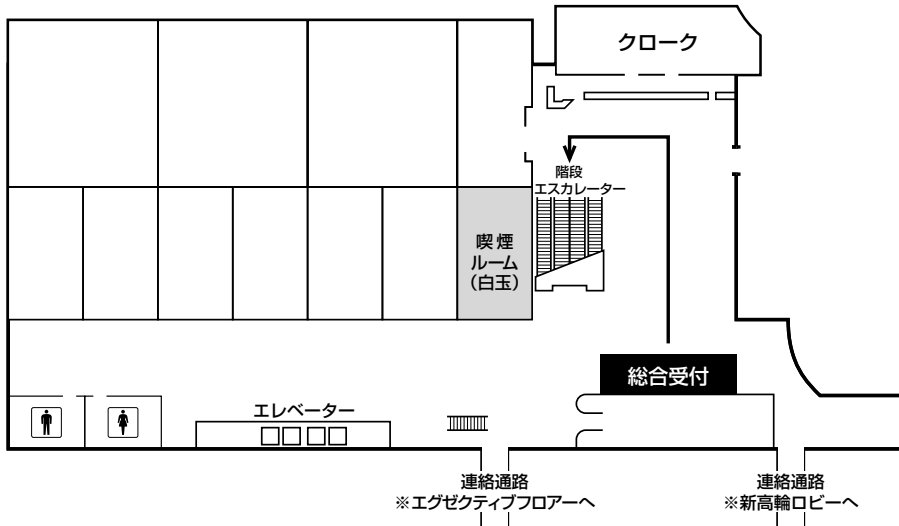
池田 靖洋	福岡大学医学部 名誉教授
牛尾 恭輔	国立病院機構九州がんセンター 名誉院長
大石 元	奈良県健康づくりセンター
小池 盛雄	文京学院大学 副学長 保健医療技術学部教授
神代 正道	久留米大学 常務理事
下田 忠和	国立がん研究センター がん対策情報センター
須田 耕一	東京西徳洲会病院 病理科
高山 忠利	日本大学医学部 消化器外科
竹原 靖明	相和会 横浜総合健診センター
多田 正大	多田消化器クリニック
西俣 寛人	南風病院
二村 雄次	愛知県がんセンター 総長
浜田 勉	平戸市国民健康保険度島診療所
淵上 忠彦	松山赤十字病院 院長
幕内 博康	東海大学医学部付属病院
武藤徹一郎	癌研有明病院 メディカルディレクター 名誉院長
望月 福治	仙台オープン病院 名誉院長, 仙台厚生病院健康管理センター 部長
渡辺 英伸	PCL Japan 病理・細胞診センター 特別顧問 新潟大学 名誉教授

※ 前世話人(消化管)の浜田 勉先生が前回で世話人を退職されたため、本会より、門馬久美子先生が新しく世話人に就任されました。

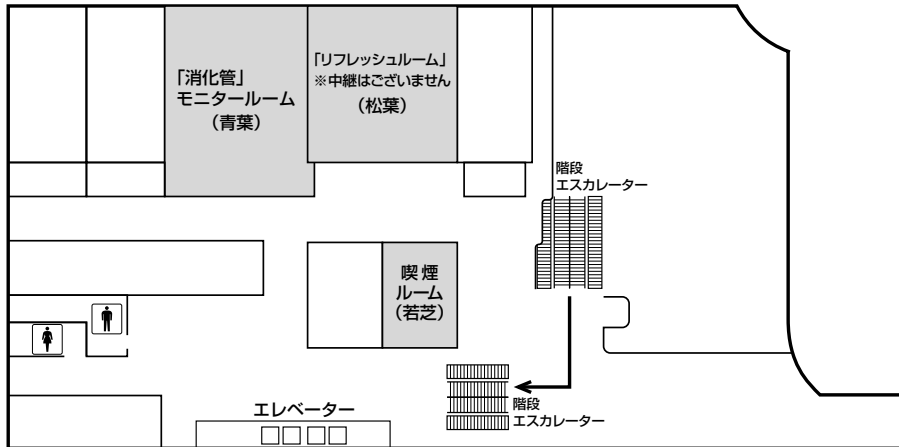
※ 前世話人(肝胆膵)の近藤 哲先生、高山 忠利先生が世話人を退職されたため、本会より、海野 倫明先生、佐野 圭二先生が新しく世話人に就任されました。

会場案内

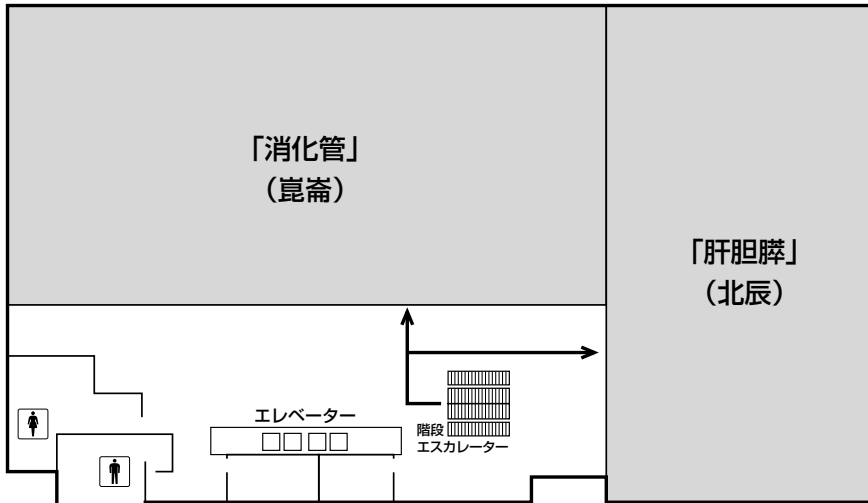
1F 総合受付



2F 研究会会場



3F 研究会会場



プログラム

共同セッション:

司 会: 真口 宏介 (手稲溪仁会病院 消化器病センター)

テーマ1

「慢性膵炎診療ガイドライン」 九州大学大学院医学研究院 病態制御内科 伊藤 鉄英

テーマ2

「クローン病診療ガイドライン」 福岡大学筑紫病院 消化器内科 松井 敏幸

※消化管会場(崑崙)にも中継致します。

【ご略歴】

いとつ てつひで 伊藤 鉄英 九州大学大学院医学研究院 病態制御内科 准教授	
学歴	昭和59年3月 九州大学医学部卒業
職歴	昭和59年4月 九州大学第3内科入局 平成5年4月 九州大学総合診療部助手 平成7年4月 九州大学第3内科助手 平成8年12月 米国国立衛生研究所(NIH)研究員(消化器部) 平成12年4月 九州大学大学院医学研究院助手(病態制御内科学分野) 平成14年6月 九州大学大学院医学研究院講師(病態制御内科学分野)併任 平成18年4月 九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 副科長 平成22年2月 九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 診療准教授 平成23年4月 九州大学大学院医学研究院准教授(病態制御内科学分野) 現在に至る
所属学会、他	日本膵臓学会(評議員、学会雑誌編集委員会委員、評議員選考委員) 日本消化器病学会(評議員、WHO ICD11 改訂 WG 委員) 日本内科学会九州支部会(事務局幹事) Advisory Board of ENETS(ヨーロッパ神経内分泌腫瘍学会) Associate editor, Journal of Gastroenterology 慢性膵炎臨床診断改訂委員、慢性膵炎診療ガイドライン作成委員 急性膵炎診療ガイドライン作成委員(第3版)、自己免疫性膵炎診療ガイドライン作成委員 自己免疫性膵炎診断基準作成委員、膵癌診療ガイドライン作成委員(第3版) 消化管膵神経内分泌腫瘍ガイドライン作成委員 消化管膵神経内分泌腫瘍疫学調査 責任者 など

まつい としゆき 松井 敏幸 福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授	
学歴	昭和50年3月 九州大学医学部卒業
職歴	昭和50年6月 九州大学第2内科入局 昭和59年5月 九州大学第2内科助手 平成2年4月 福岡大学筑紫病院消化器科助教授 平成10年4月 同上 消化器科診療部長 7月 英国オックスフォード大学留学 平成17年4月 福岡大学筑紫病院消化器科部長 (内視鏡部～平成22年3月迄, 医療情報部長 併任) 10月 同上 消化器科教授(平成22年10月より「消化器内科」に名称変更) 平成19年12月 福岡大学筑紫病院副病院長 現在に至る
所属学会、他	日本消化器病学会(財団評議員)、日本消化器内視鏡学会(理事、ガイドライン検討委員長 社団評議員)、日本消化器内視鏡学会九州支部長(平成20年度11.1～) 日本大腸肛門病学会(学会誌編集委員、評議員、専門医制度委員、試験問題作成委員) 日本消化器集団検診学会(評議員)、日本消化管学会(理事) 大腸癌研究会、小腸研究会 幹事、早期胃癌研究会 運営委員 雑誌「胃と腸」編集委員長、member of American Gastrointestinal Association 九州大学大学院機能内科学 非常勤講師 member of American Society of Gastrointestinal Endoscopy など

主題 1 大腸:「潰瘍性大腸炎に合併する腫瘍性病変の診断と治療」

司 会: 松本 主之 (九州大学病院 消化管内科)
 山野 泰穂 (秋田赤十字病院 消化器病センター)
 病理指導: 味岡 洋一 (新潟大学大学院 分子・診断病理学)

1. 基調講演

「表在型UC関連大腸癌の内視鏡診断」

慶應義塾大学医学部内視鏡センター

岩男 泰

2. 症例検討

【症例提示】

1) 旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野

野村 好紀

2) 昭和大学横浜市北部病院 消化器センター

久津川 誠

3) 大阪市立大学 消化器内科

渡辺 憲治

【読影者】

大阪医科大学附属病院 第二内科

村野 実之

九州大学病院 第二内科

江崎 幹宏

広島大学病院 内視鏡診療科

岡 志郎

【コメンテーター】

近畿大学医学部附属病院 消化器内科

樫田 博史

藤田保健衛生大学病院 消化管内科

平田 一郎

北里大学東病院 消化器内科

小林 清典

「主題のねらい」

慢性炎症は悪性腫瘍発生の危険因子であり、消化管では慢性胃炎と潰瘍性大腸炎の癌化が知られている。なかでも、潰瘍性大腸炎は有病率の上昇にともない、本邦においても癌化例の報告が増加している。従って、本症における腫瘍性病変の早期診断と治療は極めて重要な課題といえる。しかし、慢性炎症を伴う大腸粘膜に発生した腫瘍性病変を診断することは容易ではない。近年では、画像強調内視鏡を用いることで存在診断や質的診断能が向上する可能性が示唆されているが、至適なサーベイランス法や診断法が確立されたとは言いがたいのが現状である。一方、実際に診断された病変が慢性炎症に関連したものか否かの鑑別についても曖昧な点が多い。

そこで、本セッションでは、大腸腫瘍を合併した潰瘍性大腸炎症例の病理学的特徴と内視鏡所見について、範囲・深達度診断まで含めて徹底討論し、上記疑問点解決にむけた糸口を見つけたい。

【 MEMO 】

主題2 食道:「食道扁平上皮癌の深達度診断」

司 会: 井上 晴洋 (昭和大学横浜市北部病院 消化器センター)
小山 恒男 (佐久総合病院 胃腸科)
病理指導: 大倉 康男 (杏林大学医学部 病理学)

1. 基調講演

「食道表在癌深達度診断のコツ -MM、SM1を中心に-」

仙台市医療センター仙台オープン病院 消化器内科

平澤 大

2. 症例検討

【症例提示】

1) 虎の門病院 消化器科

飯塚 敏郎

2) 昭和大学横浜市北部病院 消化器センター

池田 晴夫

【読影者】

長崎大学病院 消化器内科

南 ひとみ

佐久総合病院 胃腸科

友利 彰寿

【コメンテーター】

がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科

門馬久美子

慶應義塾大学医学部 内視鏡センター

大森 泰

「主題のねらい」

近年、内視鏡の高画質化、Image Enhanced Endoscopy や拡大内視鏡の普及に伴い、内視鏡から得られる情報は飛躍的に増加した。一方、フラットパネルや C アームの開発・普及に伴い食道造影検査の精度も著しく向上した。

しかし、様々のモダリティーを用いても深達度診断が困難な症例も存在する。なぜか？撮影法が悪いのか？解釈が悪いのか？治療法の選択に直結する深達度診断の精度を向上させるためには、診断困難例を十分に検討して困難の原因を解明する必要がある。

本セッションでは臨床画像と病理学的所見の一対一対応が可能であった症例を元に、深達度診断困難例の原因解析と対策に関して検討する。深達度診断の向上の一助となれば幸いである。

【 MEMO 】

主題3 胃:「潰瘍をきたす胃病変の鑑別診断」

司 会: 長南 明道 (仙台厚生病院 消化器内視鏡センター)
 後藤田卓志 (国立国際医療研究センター 消化器科)
 病理指導: 八尾 隆史 (順天堂大学医学部 人体病理病態学)

1. 基調講演

「潰瘍をきたす胃病変の鑑別診断」

仙台厚生病院 消化器内視鏡センター

長南 明道

2. 症例検討

【症例提示】

1) 久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門

渡辺 靖友

2) 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター

佐藤 俊

3) 北里大学東病院 消化器内科

佐々木 徹

【読影者】

大阪府立成人病センター 消化管内科

竹内 洋司

国立国際医療研究センター 消化器科

池原 久朝

仙台厚生病院 消化器内視鏡センター

佐藤 俊

国立がん研究センター中央病院 消化管内視鏡科

小田 一郎

「主題のねらい」

胃がんの診断学は、高画質内視鏡や画像強調内視鏡の登場に伴い存在診断・質的診断・量的診断すべてにおいて飛躍的に向上した。一方で、凹凸や色調の違いのみにとらわれた漫然とした生検は、質診断能の低下を助長していないだろうか？臨床にとって「何を診ているか？」を常に考えながら観察すること、すなわち健常と違う所見は何なのかを意識しながら観察することで診断能が持続的に進歩すると信じることはもはや時代遅れなのであろうか？

本セッションでは、潰瘍をきたす胃病変に焦点を当てて、一般の臨床現場において得られるさまざまな技術を駆使した診断を丁寧に行っていただく。病理組織所見との対比から「何を診ていたか？」を突き詰めることにより、日常臨床診断の手がかりとなれば幸いである。

【 MEMO 】

主題1 肝:「肝細胞癌との鑑別を要する多血性腫瘤」

～「特に FNH-like lesion について」～

司 会: 工藤 正俊 (近畿大学医学部 消化器内科)

吉満 研吾 (福岡大学医学部 放射線医学教室)

病理コメンテーター: 中島 収 (久留米大学医学部 臨床検査部)

1. 基調講演

「肝癌高リスク群に発生する FNH-like lesion について」

金沢大学附属病院 放射線科

松井 修

2. 症例検討

1) OATP1B3 の発現が低下し肝細胞癌との鑑別に苦慮した、

アルコール性肝硬変に合併した FNH-like nodule の 1 例

川崎医科大学 肝胆膵内科学

土肥 展子

2) アルコール性肝硬変に生じた 3 結節の切除例

兵庫医科大学 内科 肝胆膵科

岩井 孝史

3) HCC との鑑別を要したアルコール性過形成結節の 2 例

市立池田病院 消化器内科

澤井 良之

4) 肝細胞癌(HCC)との鑑別に苦慮した肝多血性腫瘤の一例

京都第二赤十字病院 消化器科

盛田 篤広

5) C型肝硬変に発症し肝細胞癌(HCC)との鑑別に苦慮した過形成性結節の 1 例

福岡大学医学部 放射線医学教室

真島 悟

「主題のねらい」

我が国の肝癌診療ガイドラインをはじめ各種のガイドラインにおいて、肝細胞癌(HCC)は「ダイナミックCTあるいはMRの動脈優位相で増強され、門脈相または平衡相でwashoutを示すもの」と画像上定義されることが多い。しかしながら、実臨床においてはこのような画像パターンを示しながらもHCCでない腫瘍をまれに経験することがある。殊に最近肝の画像検査の主流となりつつある、組織特異性造影剤 Gd-EOB-DTPA を用いた MR のみを用いて評価すると、このような「偽陽性」結節が増加する、との危険性も指摘されている。今回の主題では、所謂 HCC の高リスク群(ウイルス肝炎、NASH、他の原因による肝硬変など)に発生した HCC との鑑別が問題となった多血性腫瘍(非 HCC)を取り上げ、そのスペクトラム、臨床・病理・画像上の特徴を明らかにしたい。

【 MEMO 】

主題2 胆:「乳頭部腫瘍の診断と治療のコンセンサス」

司 会: 木村 理 (山形大学医学部 消化器・乳腺甲状腺・一般外科)
花田 敬士 (尾道総合病院 内視鏡センター)

1. 基調講演

「乳頭部腫瘍の画像診断と治療選択」

東京医科大学 消化器内科

糸井 隆夫

「乳頭部の解剖・組織像」

順天堂大学医学部 人体病理病態学

信川 文誠

2. 症例検討

1) 内視鏡的に切除した十二指腸乳頭部腺腫内癌の一例

川崎医科大学 肝胆膵内科学

中島 義博

2) 内視鏡的乳頭切除術にて根治に成功したと考えられる十二指腸乳頭部癌の1例

広島大学病院 消化器・代謝内科

石垣 尚志

3) 経十二指腸的乳頭全切除術にて長期生存が得られている早期乳頭部癌の1例

浦添総合病院消化器病センター外科

伊佐 勉

4) 十二指腸乳頭部の腺腫内癌に対する腹腔鏡補助下経十二指腸的乳頭切除術

がん・感染症センター都立駒込病院 肝胆膵外科

中山祐次郎

5) EUS-FNA が診断に有用であった非露出腫瘍型乳頭部癌の1例

愛知県がんセンター中央病院 消化器内科

小倉 健

6) PD を施行した乳頭部腺腫の1例

手稲溪仁会病院 消化器病センター

加藤 隆佑

「主題のねらい」

乳頭部腫瘍には腺腫、癌、カルチノイドなどがあげられるが、その存在診断、良悪性の鑑別、腫瘍の膵管内あるいは胆管内進展度診断の方法論には golden standard が存在しているとは言い難い。今回のセッションでは症例検討を通じて、診断における MDCT、EUS、IDUS、MRCP、ERCP などのモダリティの役割を明らかにしていただきたい。

治療に関して内視鏡的乳頭切除術の報告が増加しているが、その適応について膵胆管内進展を伴わない腺腫とするか、腺腫内癌まで含めるかは意見が分かれている。また外科的治療法として、膵頭十二指腸切除以外に低侵襲な縮小手術の可能性も議論したい。画像と病理の対比が十分になされ、長期経過が追跡しえた症例をふるって御応募いただきたい。本セッションでの検討から、乳頭部腫瘍の診断と治療に関する現時点でのコンセンサスの確立を目指したいと考えている。

【 MEMO 】

主題3 膵:「主膵管型 IPMNとは？」

司 会: 真口 宏介 (手稲溪仁会病院 消化器病センター)
渡邊 五朗 (虎の門病院 消化器外科)

1. 基調講演

「主膵管型 IPMN とは？」

京都府立医科大学 人体病理学

柳澤 昭夫

2. 症例検討

1) 約1年間の経過観察後に切除された主膵管型 IPMC の1例

伊達赤十字病院 消化器科

久居 弘幸

2) 膵全摘を施行した主膵管型 IPMC の1例

愛知県がんセンター中央病院 消化器内科

羽場 真

3) 拡張した主膵管周囲に分枝拡張を伴い分類の判断に苦慮した IPMC の1例

鈴鹿中央総合病院 消化器内科

松崎 晋平

4) 主膵管拡張に乏しい主膵管型 IPMN の一例

広島大学病院 消化器・代謝内科

芹川 正浩

5) 軽微な膵管拡張を呈した主膵管型 IPMC の1例

札幌医科大学 第4内科

林 毅

6) 6年間経過観察中の主膵管型 IPMN の1例

手稲溪仁会病院 消化器病センター

加藤 新

「主題のねらい」

IPMN は国際診療ガイドラインにより、治療指針について一定の方向性が示された。ガイドラインでは、主膵管型と分枝型の2分類が推奨されており「主膵管径が1 cm 以上に拡張していれば主膵管型 IPMN の可能性が高い」と記載し、主膵管型で悪性および浸潤癌が高率であるという理由から全例を手術適応とした。但し、混合型の範疇も残し、将来に向けて主膵管型と分枝型を分類すべく努力をすべきと追記している。しかし、主膵管内病変の有無に関わらず主膵管拡張がみられれば主膵管型と判定して良いのか、典型像はどのようなものであるか、混合型との区別はできるのか、実際に癌との関連はどう明確であるのか、など治療方針に関わる基本的な問題点はまだまだ多い。

そこで「主膵管型 IPMN」に焦点をあて、典型例の特徴を確認し、さらに分類の異なる可能性のある例を提示頂き、将来に向けた定義確立の一步にしたいと考える。

【 MEMO 】

【 MEMO 】

【MEMO】

【 M E M O 】

【MEMO】

【 MEMO 】



劇薬
処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること

【薬価基準収載】

グルカゴンGノボ 注射用 1mg

Glucagon G Novo 1mg

グルカゴン(遺伝子組換え)製剤

製造販売元
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1

販売元
エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン
☎ 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

 
GLG1009M02



処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること
肝臓疾患用剤・アレルギー用薬 【薬価基準収載】

強力ネオミノファーゲン® P 静注 20mL

強力ネオミノファーゲン® 静注 20mL

強力ネオミノファーゲン® 静注 5mL

強力ネオミノファーゲン® 静注シリンジ 20mL

強力ネオミノファーゲン® 静注シリンジ 40mL

肝臓疾患用剤・アレルギー用薬 【薬価基準収載】

グリチロン® 配合錠

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
 株式会社 **ミノファーゲン製薬**
東京都新宿区西新宿3-2-11

販売元
 **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：株式会社ミノファーゲン製薬 くすり相談窓口 03-5909-2322
エーザイ株式会社 お客様ホットライン ☎ 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

SMC1106M03



胃炎・胃潰瘍治療剤

[薬価基準収載]

セルベックス® カプセル / 細粒 50mg / 10%

〈テプレノン製剤〉

処方せん医薬品
注意—医師等の処方せんにより使用すること [薬価基準収載]
プロトンポンプ阻害剤

パリエット® 錠 10mg
錠 20mg

〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

製造販売元



エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先: お客様ホットライン

☎ 0120-419-497 9~18時(土、日、祝日 9~17時)

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください

PRT1011M01 2010年11月作成